

## 門脈腫瘍塞栓を来たした胃癌の2例

まつばら たけし ひら はら のり ゆき いし ばし しゅう いち  
 松 原 毅 平 原 典 幸 石 橋 脩 一<sup>2)</sup>  
 たか なし とし ひろ た じま よし つぐ  
 高 梨 俊 洋 田 島 義 証<sup>2)</sup>

キーワード：胃癌，門脈腫瘍塞栓

### 要 旨

胃癌における門脈腫瘍塞栓 (portal vein tumor thrombosis; PVTT) は稀であり，同時に肝転移を伴うことが多く予後不良である。今回 PVTT を伴う進行胃癌を2例経験した。症例1は61歳の女性。PVTT および多発肝転移，骨転移を伴う切除不能進行胃癌の診断で化学療法を施行した。治療開始後，病勢増悪なく経過しているが，門脈圧亢進による食道静脈瘤の出現を認めている。症例2は78歳の男性。PVTT を認めたが肝転移は認めず化学療法を導入し conversion 目指したが腫瘍の増大に伴う腫瘍出血で永眠された。PVTT を合併した胃癌に対する腫瘍塞栓や門脈の合併切除を伴う胃切除術で良好な成績が得られた症例も散見されるが，胃癌治療ガイドラインおよび REGATTA 試験の結果からも現時点では安易な外科切除の導入は慎むべきである。一方，化学療法の進歩による予後の延長に伴って PVTT による門脈圧亢進と静脈瘤が顕性化する症例もみられ，今後の検討課題である。

### はじめに

門脈腫瘍塞栓 (portal vein tumor thrombosis, 以下 PVTT) は一般的には肝細胞癌にみられることが多く，胃癌における PVTT は稀である。また PVTT を有する胃癌では同時に肝転移を伴うことが多く，予後不良である。さらに，PVTT

症例では肝機能低下に加え，門脈圧亢進による食道胃静脈瘤出血もみられ，予後を左右する因子となる。今回，門脈腫瘍塞栓を伴う進行胃癌を2例経験したので文献的考察を加えて報告する。

### 症 例

症例1：61歳，女性

主訴：心窩部痛

既往歴：特記すべきことなし

現病歴：2015年6月頃より心窩部痛を自覚。8月に上部消化管内視鏡検査で3型進行胃癌を指摘さ

Takeshi MATSUBARA et al.

1) 出雲徳洲会病院外科

2) 島根大学医学部消化器・総合外科

連絡先：〒693-8501 出雲市塩冶町89-1

島根大学医学部消化器・総合外科